

第7回入間市指定管理者候補選定委員会会議録

- 1 日 時 平成25年9月26日(木) 午後1時30分～2時30分
- 2 場 所 第4委員会室
- 3 出席者 委員長 副市長 友山宏一
委 員 企画部長 西勝啓祐、総務部長 石川定夫、浅見喜代治、齋藤秀雄
福祉部長 田中利之(黒須保育所、扇台福祉作業所を所管する部長)
所管課 児童福祉課 課長 布施川利夫、副参事 築地延恭、主幹 晝間忠利、
主任 宮崎秀代
障害福祉課 課長 鈴木浩昭、主幹 須田美菜子
事務局 企画課 課長 長谷川芳明、主幹 藤田拓也、副主幹 石井英寿

4 議 事

議 題

- (1) 応募者の資格審査結果
- (2) 応募者による提案内容の説明
 - ・ 黒須保育所
 - ・ 扇台福祉作業所
- (3) 審査票の提出について

(1) 応募者の資格審査結果

事務局： 黒須保育所及び扇台福祉作業所の指定管理者候補の選定については、第5回までの審議により、現在の指定管理者から応募を受け付けるとなり、黒須保育所の指定管理者である社会福祉法人樹人会、扇台福祉作業所の指定管理者である社会福祉法人入間市社会福祉協議会に対して募集要項及び業務仕様書を提示し、去る8月12日から30日までを受付期間として応募書類の提出を求めたところ、受付期間内の8月29日に書類が提出された。

提出された書類に不備はなく、応募資格についても誓約書の確認等を行い、要件を満たしている旨各所管課から報告を受けている。資格要件の中にある暴力団の構成員でないことについては、事務局で県警本部へ照会し該当者なしの報告を受けている。各資料及び本日の説明を踏まえて、採点をお願いする。

このあと各法人から施設ごとの説明を15分程度受け、一つの説明が終わったら法人に対する質疑の時間を設ける。また、2施設の説明が終わった後、所管課に対する質疑の時間を設ける。

委員長： 事務局から報告のあった資格審査について意見はあるか。

委員： ない。

委員長： このあと、各法人から説明を受けるが、採点にあたり、福祉部長は入間市社会福祉協議会の常務理事となっているので、入間市社会福祉協議会についての採点には加わらないことをあらかじめ了解いただきたい。

(2) 応募者による提案内容の説明

(黒須保育所)

社会福祉法人樹人会による応募書類を基にした黒須保育所に関する提案内容の説明の後、以下の質疑応答があった。

委員長： 質問等があれば受ける。

委員： 防犯対応、防災対応の説明があったが、防犯に関しては、女性職員だけであり大変な部分もあろうかと思う。それに対する工夫点、またはどのような対応をしているのか。

応募者： 女性だけの職場だが、日頃、市の講座のようなもの、例えばさすまたの使い方を警察の方と一緒に教えていただくといったものに参加している。また、点検は委託しているが、非常に良くやってもらっており、少しでも不審な部分があったり、作動がうまくいかなかったりするとすぐに交換や修理をしてもらっている。男性に劣らぬよう防災防犯に努めているが、黒須保育所の場合は夜間に人がいないということだけが心配であるが、機械警備を設置しているので、誤作動が何度かあったが、それ以外は今までに大きなことは起こっていない。

委員： 黒須保育所と豊岡保育園の職員の交流はあるか。もしあるとすれば、どのような交流か。

応募者： 当初、平成元年のときは、前園長の意向により豊岡保育園の職員が全員黒須保育所の職員になってスタートしたが、それ以降、いろいろな点で違いがあるため配置転換はしていない。ただし、年に2回は必ず職員合同会議を行い、小運動会、遠足等を合同で行っている。職員の入れ替えははっきりした形では行っていないが、黒須保育所に行っていた職員がたまたま豊岡保育園に空きがあってくる、というようなことはある。

委員： サービスの向上の中で、発達障害児の積極的な受け入れというように書いてあるが、現状、何人かそういう子がいるということなのか。また、それに対する保育のニーズは高いのか。その辺りの感触を聞きたい。

応募者： 障害児に関して現在は障害者手帳等の証明がある児童はいないが、職員がつか

なければならない児童が2名おり、そのうち4歳児の1名は教育研究所の通級指導教室「茶おちゃお」に通っている。職員は余裕をもって配置しているので、確かにそのような児童は大変な部分もあるが、家族にも理解を得ている。

委員： 今、「茶おちゃお」という言葉が出たので、その補足だが、教育委員会で子ども未来室事業という事業をやっており、そこで未就学児のための通級指導教室を教育研究所で行っている。その事業は保育所・幼稚園の発達障害児も対象にしており、今話にあった児童はその内の1人であるということで理解いただきたい。

委員長： 入所児童数の推移はどうか。

応募者： 法人の役員会でも話に出るが、地域的に急増することはない。90名の定員であるが、年度当初は80から85名でスタートし、年度末には90から95名になる。今年も80名でスタートし、現在は89名である。大体、定数ぐらいで落ち着いており、急増するという事もないし、急減するという事もない。豊岡保育園においても同様である。

委員： 応募書類の中の組織図は、黒須保育所のものか。あるいは、法人全体のものか。

応募者： 黒須保育所のものである。

委員長： 以上で、黒須保育所については終了する。

(扇台福祉作業所)

社会福祉法人入間市社会福祉協議会による応募書類を基にした扇台福祉作業所に関する提案内容の説明の後、以下の質疑応答があった。

委員長： 今の説明もしくは応募書類の中で確認したい点等あれば発言願う。

委員： 応募書類の管理運営の項目に「社会福祉協議会ではそれぞれの受託事業の充実を図ると共に自主財源の更なる安定を図ってまいります」とあるが、具体的にはどのような内容か。また、福祉作業所には平成25年度から13名の方が通所しているということだが、辞める人は多いのか、それとも入所するとずっといるのか、その辺りの状況を教えてほしい。

応募者： 社会福祉協議会は市民に対し、いろいろな福祉サービスを行っている民間の団体である。事業を実施するに当たり、財源を確保するために市民に会員になってもらい、会費を集めている。今年の入間市連合区長会の協力により、1世帯300円の会費を徴収している。その他、市内の企業などの法人を対象とした特別会員という制度を導入し、財源の確保に協力してもらっている。寄付金等もあるが、社会福祉協議会の自主財源はこの会費であり、今後、会員数、会費を増強させるための努力、企業を回って会員になってもらう努力を今後とも続けていきたい。

続いて、通所者の 13 名について説明させていただく。昨年度は 16 名おり、3 名が退所した。その内訳は、その方の父親が亡くなられ、母親が認知症のため施設入所され、本人は他の施設に入所したという方が 1 名。また、障害福祉課にパート職員として 1 名就労した。もう 1 名は転居のため退所した。作業所の定員は 19 名だが、就労支援をしてもらえと思い入所を希望する方が多く、実際に作業所に来てみると、本人に対しての就労支援が可能だろうかということに疑問を持たれ、他の施設に行く方もいる。利用者の状況に合わせて毎年違う支援計画を作り直してはいるが、必要な就労支援を受けるのは難しいといった意見もいただいている。

逆に、食べること、立っての移動、排泄、すべての介助が必要で、職員が 1 名そこにはないととても対応できない、環境整備もしなければならないという方も高齢化により増えてきており、段々そのように作業所自体の需要も変わってきている。今いる利用者に対しては適切な支援を行っている。

委員長： 以上で扇台福祉作業所は終了する。2 法人の提案が終わったが、所管課に対して何か質問があるか。なければ、応募者による提案内容の説明は以上とする。

(3) 審査票の提出について

委員長： 事務局より説明する。

事務局： 前回の委員会でも説明したが、再度確認の意味で申し上げる。5 段階で採点していただく。今日の 2 施設については審査項目が 9 項目あり、普通評価の 3 点に 9 を掛けた 27 点を合格ラインとし、委員の一人でも 1 点を付けた項目があった場合は、再度協議することとする。

審査票は 9 月 30 日までに企画課へ提出していただく。委員長、企画部長、総務部長、外部委員については前回の 4 施設の審査票と一緒に提出いただく。

委員長： 質問はあるか。なければ、議事は以上で終了とする。

5 その他

次回の日程について

今回は 10 月 11 日(金)に集計結果及び今後のスケジュールについて行う。

以上